

告 辞

本格的な春を迎えて本日ここに、ご来賓ならびに関係各位のご臨席をいただき、佛教大学通信課程、第 21 回前期大学院学位記、第 65 回前期卒業証書授与式を挙行できますことは、大きな慶びであります。卒業生・修了生の皆さん、卒業・修了、本当におめでとうございます。佛教大学関係者一同、心よりお祝い申し上げます。

卒業生・修了生の皆さんが、今日この喜びの日を迎えることが出来たのは、もちろん一人一人の努力の賜物であります。あわせて、皆さんを支え、温かく見守ってこられたご家族、保護者の皆様、友人の方々などの支援あつてのことです。ご家族はじめ関係の皆様には、今日までのご苦勞に敬意を表しますとともに、心からお喜びを申し上げます。

卒業・修了される皆さんは、大学院、学部、といった課程の違いや、専攻、学科など、学ばれた専門領域にそれぞれ違いはありますが、この佛教大学に所定の期間在籍されたわけです。その間に、本学の建学の理念である仏教精神に基づいて、また法然上人の心をいただいた大学として展開・提供されている教育によって、人間として生きてゆくための智慧と慈悲をしっかりと身につけていただいたものと信じます。

ここに仏教によって教えられている人生の道標をお伝えしておきたと思います。それは「思いが言葉となり、言葉が考えとなり、考えがアイデアとなり、アイデアが行為となり、行為が人格を作り、人格が人生を作る」ということです。思いが言葉や行動として現されて初めて価値づけられることとなるのです。とくに、思考から行為への転換が、本学の教育の基本である「転識得智（学んだ知識を生きる力へ）」なのであります。そして、これこそが本学において皆さんに修得していただいた智慧なのであります。

そして慈悲とは、喜びや幸せを積極的に他のものに分かち与え、そして他のものの苦しみを取り去る行為であります。

それにつけても、よく忍耐し、頑張っていたいただきました。通信教育で卒業することはたやすいことではありません。まず自らを律しなければなりません。自分で計画を立て、自分で己を励ましながらの道だったでしょう。正に仏教にいう自策自励であります。苦しい時もあったでしょう。孤独な時もあったことでしょう。しかし、自ら目指した目的を一步一步努力して全うした今、大きな満足感となっているものと思います。皆さんに培われたのは何よりもこのやり遂げる力、精進力なのであります。それこそが、今後の人生を歩む上で、皆さんの大きな力となるはずであります。

思えば、近年、大きな災害が頻発し、多くの尊い命を失うとともに荒廃した地域がたくさんあります。人間の智慧と慈悲と和の力によって徐々に復興されてきておりますが、まだまだ道半ばであります。わたしたちは、あの大変な災害を風化させることなく、教訓として活かしていかなければならないでしょう。また、その後も各地で自然災害や人災などが頻発しています。さらに世界に目を向けますと、各地で紛争も続いています。そしてとくに昨年来

新型コロナウイルス感染症が世界に蔓延し人々を苦しみの中に閉じ込めています。このような社会、世界の現状を認識し、危機に対応できる力、危機をのりこえ、希望を持って前に進むことのできる智慧と勇気を持たねばなりません。

今式典を行っているこの建物は、蓮の華をモチーフにして作られています。蓮はインドの国花であり、仏教では私たちの理想の生き方を意味するものとされています。ここに一つの歌があります。

「よく見てくりゃれ蓮の華、汚い泥に足さして、周りは汚い泥の水、それでも華のさくとき
きにゃ、水の表に顔だして、何の穢れもなきぞこれ蓮」

であります。混沌とした穢れ多い世界でありますが、自分の人生の華を咲かせるときには自分の一番いいところを穢れなくさかせましょうよ、というのであります。

佛教大学で学ばれ、身につけられたすべての力を存分に発揮され、素晴らしい人生の華を咲かせられるとともに、社会で自分を活かせ、活躍されることを祈念いたします。

本日をもって、皆さんは、大学での学びを終え、それぞれの立場で、社会で生きてゆくこととなりますが、時には迷い、立ち止まって考えなければならないことに会うかもしれません。そんな時には、いつでも母校である本学においでください。皆さんと佛教大学との御縁は途切れることはありません。私たちはいつでも、皆さんの再来をお待ちしております。

あらためて皆さんの卒業・修了を心からお祝いし、告辞といたします。

令和3年3月25日

佛教大学長 田中典彦